

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3873500536
事業所名	グループホームすまいる
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	鐵宮 翔太
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 20 日

<p>【事業所理念】</p> <p>将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームを目指す</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>コロナ禍のためイベントや外出の機会が減り、地域やご家族との関りも少なくなったが、入居者の意向や思いに携わり精神面に考慮し遠慮ない関係性を築けている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>高台の住宅街にある2階建ての事業所の窓からは、四季折々の山や畑の景色を眺めることができる。コロナ禍においても、事業所では感染症対策を取りながら、近隣への散歩やドライブを行い、利用者の気分転換ができるよう支援しており、散歩中に自然や季節を感じながら、近隣住民と会話を交わすことは、利用者の楽しみの一つとなっている。また、事業所の開設当初から働く職員や勤務歴が長い職員もおり、チームワークを大切にしながら、安心して利用者本位のケアを実践できる環境づくりを心がけている。さらに、「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームを目指す」という事業所理念を職員は念頭に置き、日常生活の様々な場面において、利用者の身体機能の維持向上や、残存機能に考慮した取組みを行いながら、楽しみのある生活が送れるように努め、利用者の自信や活気に繋がる支援をしている。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	一人一人と一対一で会話をしたり、接する時間を作り、希望やお気持ちを聞くようにしている。	◎	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族から、暮らし方の希望や意向などの聞き取りをしている。また、日々のかかわりの中で、新たに利用者から知り得た思いなどの情報を記録に残し、職員間で共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	常に入居者の目線や気持ちになり職員間で話し合っている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	コロナ禍のため面会等難しくはなっているが、面会できるときは本人の思いについて話し合い理解を深め共有している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日々の生活を記録し、職員と連携しながら個々での対話も共有し把握するようになっている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の引継ぎや職員会議にて現状に把握に努めている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前のアセスメントシートにて利用者さんの経歴・身体経過等をスタッフ間で共有している。本人にも確認したりご家族の面会等で対話し、出来るだけ多くの情報を得られるようにしている	/	/	◎	入居時に、アセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、基本情報や趣味、性格などを聞き取り、記録している。また、日々のかかわりの中で、新たに利用者から知り得た情報や職員の気づいたことは、利用者毎に気づきノートに記載し、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	利用者一人一人の現状の身体や、潜在能力等を把握し生活リハビリを取り入れて、有する力を高められるよう努力している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	記録や引継ぎにて変わったことを話し合い状況把握を毎日している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々職員同士で話し合い、情報交換し安心して生活して頂けるよう支援している	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	記録を確認し気づいたことを話し合い、全員が把握するようになっている。また定期的なケアカンファレンスにて変化にも対応できるようにしている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の記録や引継ぎをもとに、ご本人との会話を重ね、本人の言動や顔つき等を読み取りながら職員間で話し合っている。	/	/	○	把握した情報をもとに、利用者や家族から意見や要望を聞くほか、医師などの関係者からも指示や意見を聞き、職員間で話し合いをしている。また、利用者が生活を送る上において、何を求めて、何が必要なのかを、利用者の目線で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	定期的にモニタリングしたり、随時ケアカンファレンスしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題が見つかった時には、カンファレンスを行い、その時必要なケアを重点的に取り組めるようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人の思いをくみ取れる様、出来る限り会話したり、寄り添い、動向を確認している。				事前に、職員は利用者へ寄り添いながら意見や要望を聞くとともに、家族から意見や意向を聞いている。また、アセスメント情報をもとに、聞き取った意見等を参考にして、職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者がより良い生活を送ることができるような暮らし方や課題、サービス内容に、利用者や家族、関係者の意見が反映された計画となるよう努めている。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族面会の折には、日頃の様子やケア方針を説明したり、ご家族の要望を聞いている。ご本人とも常に対話し、思いをくみ取れる様努力している。	○		○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご本人の慣れ親しんだものを居室に置いて安心感を得られるように工夫したり、ご本人の顔色や顔つきを見ながら、言葉かけや見守りを行なっている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族の意向等が明確で有る場合、ケアプランに取り入れ、支援するようにしている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランに基づき、それに沿った支援をしながら、入居者の顔つきや動向を確認している			◎	利用者一人ひとりに、介護計画に掲げている課題や目標どおりに、サービス内容に沿ったケアが実施できたかどうかを、毎日一覧表でチェックを行い、記録に残すことができている。訪問調査日に確認できた記録は、事業所として取り組んでいる利用者の心身機能の維持やリハビリに焦点を当て、一人ひとりの計画の中に、散歩やスクワット、脳トレ、立位訓練などを取り入れたサービスの実施状況を確認することができる。また、日々のケア記録には、利用者の言動や状況を記録するとともに、職員の気づきやアイデアは申し送りノートや気づきノートに記録されている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	職員同士で気づいたときに話し合ったり、話し合いの場を設けて日々状況確認し、より良い支援を行うよう努力している			◎		
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別に記録し入居者の日々の状態や変化等を常に把握できるようにしている			○		
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日誌や介護記録にて、ご本人が発した言葉やそれに対応した言葉など、細やかな記録をしている			○		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	新規の方は、基本1~2ヶ月で見直しを行い、入居期間の長い方でも、その状態に応じ、必要であれば都度、見直しを行っている。基本、半年を目途に見直しを行っている			◎	入居後すぐの間もない利用者には、1か月~2か月で介護計画の見直しを行うほか、要介護認定の期間に合わせて、6か月に1回を基本として、見直しをしている。また、状態に変化があった場合には、随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成するようにしている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	2ヶ月に一度の全体ケアカンファレンスと状態に応じてのケアカンファレンスを随時行っているの で、ほぼ、現状確認は出来ていると思う。			○		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院時等、常にプランの見直しや作成をしている。またご状態変化がある時は、ご家族と連絡をとり今の現状を説明して、ご家族の意向もお聞きするようにしている。			◎		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に職員会を開いており、また緊急案件が挙がってきた場合は少人数でもカンファレンスを行い、引継ぎの徹底をしている。			○	2か月に1回、ユニット毎に職員会を実施し、職員間で話し合いをしている。また、急を要する場合には、その都度カンファレンスを実施している。さらに、会議に参加できなかった職員には記録を確認してもらうとともに、重要事項は口頭でも伝えている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では全員が発言できるようユニットリーダーを中心に進めており、職員同士も日頃からコミュニケーションをとっていて、何でも話しやすい環境が出来ていると思う。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	当日夜勤以外は参加できるように努めている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成したり、引継ぎ等にて伝達できるようにしている。			○		
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	職員ノートを作り毎日確認したり二か月に一回職員会議を行い、また気づきノート等も作成して些細な情報も共有している			◎	日々の申し送りを実施して口頭で伝達を行うほか、申し送りノートや気づきノート、議事録等を活用しながら、職員間で情報共有をしている。また、申し送りノート等は、出勤時に確認するとともに、内容を把握したら確認後に職員はサインを残し、伝達漏れがないように努めている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り時に話し合ったり決定した事は職員ノートに記入し全員が把握できるようにしている	○				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	入居者の体調に応じて検討し、出来るだけ叶える努力をしている	/	/	/	食べることや着る服、その日にしたいことなど、日常生活の様々な場面で、利用者の意向を尊重しながら、自己決定できるよう支援している。また、自己決定することが難しい利用者には、選択肢を絞って声かけをするなどの支援に努めている。また、夏には事業所の敷地内の家庭菜園で野菜づくりをしたり、いつものリビングと違う雰囲気づくりをした部屋で、入れ立てのコーヒーを飲みながら、おしゃべりをしたりするなど、利用者が楽しんで生活が送れるような支援にも努めている。さらに、利用者一人ひとりの好きなことや得意なことを把握し、楽しく活き活きとした生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	着る物や飲みたいものを選んで頂いたり、買い物では食べたいおやつを選んで頂けるよう支援している	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	入居者の表情を見ながら話しかけたり会話の中でご本人に選択肢ができるような働きかけをしている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事や入浴等時間が決まっているものもあるが、本人の体調や一人一人のタイミングやペースに合わせてるように努力している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員も笑顔で話しかけるようにし、入居者の好きな話題を把握し提供することで楽しい雰囲気を作るようにしている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や身体の動き等把握し、少しの反応も見逃さないようにしている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	その支援内容により声掛けの言葉や大きさに注意したり、トイレや居室での支援の際も常に最新の注意を払っている	○	○	◎	事業所の開設当初から、長年勤務している職員もおり、利用者の尊厳や人権を考えてケアを行うように、管理者等は新しい職員にも伝えている。利用者へ同じ言葉の声かけを行う場合でも、強い口調や声のトーンなどで、職員は利用者がどのような気持ちになるかを常に意識したケアを心がけている。また、口調や対応が気になる職員には、すぐにその場で注意することなく、職員のその時の心情に考慮し、管理者や計画作成担当者が、職員自らが気づけるようなアプローチをしている。さらに、メインで使用しているトイレには、紙パンツやパッドが外から丸見えにならないように、布で隠す配慮を行っている。加えて、居室は利用者のプライベート空間であることを理解しており、職員はノックや不在時の入室の事前確認をするなど、適切に対応をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	声掛けや対応を常に意識し、個別時は近くに行き声掛けしている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	個室の扉を開け、プライバシー等を配慮し、個々の状況によりドアの外で見守ったり、声を少しだけ開けて見守っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入るときは必ずノックしたり、声掛けをし、入室させて頂いている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報漏えいを理解し、守られている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	常に生活の場面があるので家事等、若いスタッフが昔の事を教えていただくことも多く、お互いに感謝の言葉を掛け合い穏やかな関係性を築いている	/	/	/	職員は利用者の性格や関係性を把握し、早めに察知して間に入るなど、トラブルが起こらないような配慮をしている。また、利用者が一人になる時間を大切に考慮した支援を行うとともに、男性等の利用者が、孤立しないように声かけや配席を変更するなどの対応にも努めている。さらに、廊下に掲示されている利用者の日常や行事の写真からは、利用者同士の良好な関係をうかがうことができ、利用者の活気に繋がっている。加えて、若い職員が利用者から教わることも多く、「ありがとうございました」などの感謝の言葉を伝えている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	入居者と共に協力し、支え合うことで刺激し合っている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	入居者同士の関係を把握し、孤立する方も職員が間に入りその場面場面で席を移動して憩いの時間を作ったり、皆さんと仲良く出来るようにしている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	即座に対応できるように見守り、間に入り解消するよう努力している	/	/	/	

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人に聞いたり、ご家族に聞いてほぼ把握している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族から聞いたり、ご本人からも話を聞き、ある程度把握している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナ禍のため、ここ二年は外出は難しいが、お話を聞いたり、電話や手紙でのやりとりも支援している				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	以前は居室やホールで面会出来ていたが、現在は面会を控えているので、特別な場合は玄関先でお話されている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナ禍で個人の外出は極力控えているが、外気浴やドライブなどは行かれ、気分転換して頂いている	○	○	○	コロナ禍以前は、利用者と一緒に近くのスーパーへ食材の買い物に出かけるなど、日常的に外出することができていた。現在は、感染症対策に十分に配慮をしながら、近隣を散歩したり、ドライブをして季節の花を見に行ったりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、重度の利用者にも、車いすですて事業所の外に出て、季節を感じてもらいながら、外気浴や日光浴などの支援をしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	今は行けていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	季節によって着る物を調節して外気浴に行かれ、季節の雰囲気味わっていただいている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望を把握し、可能な所へは出来る限り同行している				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	常に入居者一人一人のケアについて、職員間で話し合い対策を共有し協力している				立位訓練に使用するパーを廊下に取り付けて、車いすを使用している利用者も、筋力が低下しないように訓練を行い、成果が現れている利用者もいる。また、階段で足を上げる動きを行ったり、食事の際にはなるべく車いすから、いすに座り直してもらったりするなど、日々の生活の中で、生活リハビリや身体機能の維持の向上に努め、利用者一人ひとりの自信に繋がるような支援をしている。さらに、利用者の高齢化等に伴い、自分でできることが減ってきているものの、現状でのできることやできそうなことを見つけ、職員は見守りや一緒に行えるよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活リハビリや様々な体操を取り入れたり、トイレでの排泄を可能な限り行ったり、ご本人の残存機能の維持に務めている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	入居者一人一人の潜在能力を生かし、出来ると思われることには場面づくりをしながら、ご本人の自発を促せるような取り組みをしている	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントシートや日々の会話にて、ご本人ができることを探し、把握している				事業所では、利用者一人ひとりの趣味や好きなことが継続できるよう取り組むとともに、2か月に1回外部から先生に来訪してもらい、習字を習う時間を設けている。また、身体状況に変化があった場合には、残存機能を活かして、指先で掃除の際の端切れの布の作成をしてもらったり、レクリエーション時に、他の利用者を誘う役割を担ってもらったりするなど、少しでも利用者に関わり合いや楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、定期的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	職員は各々の得意分野を把握しており、その能力が発揮できるようレクリエーションなども工夫している	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	今は地域活動は控えている				

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	ご自分で選べる方は好みの服など選んで着られている。ご自分で選べない方も季節に合った服を職員が選び着せていただいている				整容の乱れや汚れが見られた場合には、さりげないフォローを行うとともに、居室に移動して着替えをしてもらうなど、利用者のプライドや羞恥心に配慮した対応を心がけている。また、行事の際には、化粧品やアクセサリをつけてお洒落を楽しむ利用者もいる。さらに、重度の利用者には、家族の協力や以前の好みを参考にしながら、本人らしい装いができるように支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	定期的な訪問理容の際にも個々の好きな髪形にして頂いたり、また、行きつけの理容室がある方は、その都度外出して頂いている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	ご本人の話を聞いて職員間で話し合ったり、気づきを基にして支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	ご本人と話して決めたり、ご自分で選べない方も、そのときに合った服装を選べるよう支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	着衣の乱れや、ボタンの掛け違えや、前後の逆などご本人にさりげなく声掛けて直して頂いたり、髭剃りなどは楽しく会話しながら出来るように心がけている	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	ご自分で行ける方は外出時に行かれています。また、それ以外の方は定期的に訪問理容を利用しており、楽しみにされている方も多い				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族に持ってきていただいたり、昔の写真等でご本人の好みを把握し、似合うものを選んで着て頂いている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	入居者の状態にあった形にし、提供できるようにしている				訪問調査月の数か月前から、事業所では業者の宅配サービスの利用を開始し、業者の栄養士が作成したメニューの食材が届けられるようになっていた。届けられた食材で、昼食は調理専属の職員が調理するとともに、朝食と夕食は順番に、職員が味付けや調理を行い、食事を提供している。地域住民や家族から、レンコンなどの野菜の差し入れをもらうこともあり、利用者や相談しながらメニューに加えることもある。調理の下準備やおやつ作りは、利用者も一緒に手伝っている。食器類は、使いやすい物を使用するとともに、自宅から自分の箸を持参してもらい、使用している。職員は交代で見守りや介助を行いながら、利用者と一緒に食事を摂ることができている。また、食事の際にはテレビを消し、静かでゆったりとした音楽を流して、食事の時間と分かる演出をしている。さらに、対面キッチンから調理の様子や匂いを感じることができ、重度の利用者も含めて、楽しく食事が摂れるよう支援している。加えて、業者から食材が届けられているものの、味付けや柔らかさなどを職員間で話し合い、利用者の好みに配慮した食事が提供されている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	◎	おやつ作りや食器拭きなど、入居者と共に行っている。また食材の下準備を手伝って頂いたり、誕生会等には食べたい物を聞いたりしている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	お米を研いでもらったり食器拭きなどをして頂いている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご本人や家族から話を聞き、苦手なものは味や量を変えて対応している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	入居者の好みの味付けを考えたり、季節によって旬の食材をメニュー変更し、作っている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	彩を考えたり、大きさや形態を考えた盛り付けにしている。食事中の状態観察を行い、変化があった場合にはその都度職員間で相談し対応している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使いやすいものを使用している。	○	目の悪い方には食器を分かり易いものに変えたり、使い易いものを選択できるような箸やスプーン等を揃えている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	食べにくい大きさのものは食べ易くカットしたり、苦手なものは言葉がけに工夫をしている。バランスよく食べられるように常に見守り声掛けしている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	どんなメニューを食べているか等の声掛けをし、介助している。		◎	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	定期的に体重測定などを行い、その日の体調に応じて調整している。水分量などは季節や気温なども考慮している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	飲みにくい方には飲み物を変更したり、回数を調整している。食事が少ない方は経口栄養剤やおやつなどで調整、追加するようにしている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	今現在、食材は業者委託しているので、カロリーやバランスは取れていると思う。また時々、メニュー変更し、季節ものを取り入れるようにしている			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具を消毒したり、新鮮な食材を配達してもらうようにしている				

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者の状態に合わせて、ブラシを変えたり歯磨きティッシュなどを使用し清潔に保てるようにしている				毎食後に、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。職員は声かけや介助を行い、終了後には、利用者の口腔内の様子を確認している。また、自分で歯磨きができる利用者にも、職員は声かけを行うとともに、磨き残しなどの口腔内の状況を確認できている。さらに、入れ歯のかみ合わせや、虫歯などの異常が見られた場合には、必要に応じて、歯科医の往診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	本人の訴えや、口腔ケア時によく観察し把握している			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科受診時に学び、共有している				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分でできる方はしていただき、さりげなく確認している。また介助が必要な方は支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口臭のある方は舌のブラッシングや口臭予防のできるものを使用している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	本人の訴えだけでなく、食事のペースが落ちてきているなどの症状が表れたときなどにも口腔内の状態を確認し、歯科医に相談し受診している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	本人に相談する際に傷つけない言葉かけの仕方にも話し合いを持ち、本人が納得した上でその時に応じたものを使用している				事業所では、利用者がなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。また、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせて声かけやトイレ誘導をこまめに行うことにより、使用するパッドの枚数が減った利用者もいる。中には、布パンツで生活できている利用者もいる。さらに、職員の声かけ等により、できる限りトイレで自立した排泄支援を促すことで、利用者の自信にも繋がっている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	入居者個々の健康状態を把握し、水分量や運動を促し、便秘対策している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々の排泄時間を毎日記録し、間隔パターンを把握している。ご自分でいけない方は誘導している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	夜間や外出時に尿漏れを心配する入居者様には昼夜のパンツや紙パンツの履き替えを支援したり、個々の身体状態に応じて対応している	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	ご本人の健康状態を確認し、水分・運動を促せられるよう話し合い、出来るだけ自然に排泄できるよう対応している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	居室に戻られる際や移動前など早めに声掛けを行い、誘導している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人と話し合いを設けたり、職員で相談し夜間は安心して就寝できるようなものを使用している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	入居者の日中夜間の状態、変化等を職員で話し合い使い分けしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食事や水分、運動を工夫し、自然排便が出来るよう促している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるように支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	ホームの構造上、曜日や時間帯は決まっているが、その日の体調を見ながら入浴時間や温度に気を付けて入浴できるようにしている	◎		○	週2回を基本として、利用者は入浴することができる。夏場などの時期には利用者が汗をかくこともあり、希望や状態に応じて、入浴回数等を柔軟に対応している。また、1階には、入浴用の車いすを活用して、湯船に浸かることのできる機械浴槽があり、重度の利用者も、安心安全にゆったりと入浴できるよう支援している。さらに、職員は声かけを工夫しながら、利用者の入浴を誘うとともに、入浴剤を入れるなど、気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	楽しいお話を促したり、入浴剤を使用したりしている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるように支援している。	◎	湯船につかる動作一つ一つにしても足が上がるか上がらないかで入居者各々に介助動作を変え、ご自分でできることはして頂き、できないことは介助している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるように工夫している。	◎	声かけに工夫し、気持ちよくって頂けるように支援している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には必ずバイタルチェックし、健康状態を確認している。また入浴後も水分補給や体調管理をしている				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	就寝時間や夜間に起きられた時間などを記録して、睡眠パターンを把握している	/	/	/	入居前から、継続して睡眠導入剤を服薬する利用者がいるものの、運動や散歩などの日中の活動量を増やし、服薬の必要がなくなった利用者もいる。また、職員は利用者の様子を観察しながら主治医に相談するとともに、利用者が落ち着けるような声かけや環境に配慮し、服薬に頼りすぎない支援を行い、夜間に利用者が良眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼夜逆転しているときには日中声掛けや運動を増やしたり、心配事がある時はお話しする機会を増やし、入眠前は照明や空調を考え、眠りやすい環境を心掛けている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中に運動して頂いたり眠れていない方は休息をとって頂いている	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	日中の状態に応じて本人に個別に取って頂いたり、重度の方は臥床時間をとって頂いている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	ご自分の携帯を使用されている方で、支援が必要な方には支援したり、ホームの携帯で取り次ぎしたり、ご本人の希望に沿えるようにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご本人が手紙を書けない時は、一言でもメッセージを書いて頂いたり、名前を書いてもらうなど、各々に少しでも出来る事を促し、支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	要望があれば、ホール内の携帯を繋いだり、個室での電話も出来るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	わかる方には渡したり、返事を書きたい場合は手紙、はがき等の調達や投函を支援し、読めない方には朗読や内容をお伝えしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をかけたいという要望があれば随時対応しており、特に県外で面会が困難なご家族にはお手紙などを頂けるようお伝えしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	一緒に買い物に行ったときにお菓子や個人的な日用品など欲しいものを買うようにしている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	基本的には金銭の所持はトラブルを避けるためご家族にもご理解を得てお断りしているが、必要なものは施設での立て替えにて対応し、購入できるようにしている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	良く行くスーパーは地域内にあり、ホームの事も知っている為、その会話や言葉掛けて、ケアの事を理解して下さっていると思う。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	基本的には金銭の所持はトラブルを避けるためご家族にもご理解を得てお断りしているが、事務所の金庫でのお預かりはしており、必要な時にはいつでも使えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人やご家族と話し合い事務所で管理できている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	ご家族との同意のもと金銭の管理は事務所にて行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々へのニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者やご家族と話し合い、個々の家族間の諸事情にも配慮しながら、外出や面会なども柔軟に対応している。また今までにない要望があった場合は、難しいと決めつけず安全性や体調に考慮し、話し合い検討している。	◎	/	◎	事業所では、利用者や家族の希望やニーズに応じて、状況を考慮しながら、より良い対応ができるように検討を行い、可能な範囲で柔軟な対応をしている。また、外部からの訪問マッサージを利用できるよう支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は引き戸になっており、一般的な家庭より少し広々とした空間にはなっているが、気軽に出入りできるように花や季節ごとの物を置くなどインテリアを考え工夫している	◎	◎	◎	明るく家庭的な雰囲気のある玄関先には、ベンチの横に新たに自動販売機が設置され、近隣住民や子ども達も利用をしている。また、訪問調査日には、玄関の窓辺に、利用者と一緒に作った干し柿が吊るされ、季節感を味わうことができた。さらに、事業所の外から窓ガラス越しに、リビングで楽しそうに過ごす利用者の様子がうかがえ、開放的な雰囲気が感じられる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。)	◎	共用の空間には入居者と一緒に作成した物などを飾ったり、季節や行事ごとに写真や飾りつけをしている。	◎	◎	◎	事業所では、季節毎にお雛様などを飾ったり、正月には正月飾りの前で、利用者が着物で記念撮影をしたりする場合などに、リビングにある畳スペースが活用されている。また、事業所は開設してからの年数を感じさせないぐらいの細かい部分にも配慮された環境整備が行き届き、明るく清潔感があり、快適な空間となっている。さらに、訪問調査日には、テーブルに生けられたバラを愛でる利用者の姿が見られ、花がない時でも、近くの野草を利用者と一緒に飾るなど、心地良さを感じることができた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除し、消臭剤を置くなど不快感がないようにしている					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	生活空間の中に季節を感じるものを取り入れ、季節の花や置物を飾ったり、会話の中にも季節の話や話題のニュース等を取り入れ心地よく過ごせるようにしている					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	居室は個室となっており、ご本人の意思でいつでも休めるようにしている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	構造的にほぼ直接見えなくなっているが、見えてしまうところにはカーテンで仕切りを作っている					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居の際には、出来るだけ本人が使い慣れた物等を持ち込んで頂ける様、ご家族にお話させて頂いている。	◎		○	居室には、使い慣れた物や馴染みの家具などを持ち込み、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。エアコンは設置されているものの、床暖房の活用で、冬でも乾燥を防ぐことができている。また、家族の写真や、誕生会時に職員から寄せられた寄せ書き等が飾られ、温かみのある空間となっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	段差はなく、開閉しやすい扉になっており、また表札などを作成し目でわかるような工夫もしている			◎	トイレの場所が分かりやすいように表示するとともに、一人ひとりの居室の入り口には、職員手作りの木製のネームプレートが掛けられ、認識しやすいよう工夫されている。また、リビングには大きく見えやすい日めくりのカレンダーと、その月の行事や往診の日等が書かれたホワイトボードが設置され、利用者も事前に確認ができるようになっている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	危険なものは触れられない場所に置くようにしている					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	基本ほうき等の掃除道具は定位置に置いている。新聞などは入居者本人がいつでも手に取れるようにしている					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	防犯上夜間は玄関やユニットの出入り口は施錠しているが、入居者の安全を守るために日中はチャイムを付け開閉可能にしている。	◎	◎	◎	日中には、玄関と両ユニットの入り口の施錠はされておらず、利用者等の出入りは、センサーチャイム等を活用して対応をしている。また、夜間と午前中の職員が揃うまでは、防犯と安全のために、玄関等の施錠をしている。さらに、外に出たい利用者には職員が付き添い、気軽に散歩を行うなど、外気に触れて気分転換をしてもらっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時や契約時にご家族と話し合い理解を得ている。また施錠を望まれるご家族にも閉塞感からくる認知症の進行があることも理解して頂き、なるべく自由な生活をして頂けるよう話し合っている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中は施錠はしておらず、外出の時は事務所の前を必ず通るような構造になっている。またご家族と外出される際は行先を把握しており、大体の外出時間まで教えて頂くようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時のサマリや薬表にて、病歴や現病等職員で情報共有し把握している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	健康管理表にて、血圧、検温、排泄、食事量、内服薬等の把握や管理をし、再測時等も記録に残すようにしている。情報共有もしている	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医は、定期的な往診や受診で入居者の状態を把握して下さっており、担当看護師も長年のお付き合いの為、電話での相談にも応じて頂いている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	受診状況は、受診記録にてスタッフ全員が把握できる様にしており、殆んどの方が入所前より協力病院が主治医の為問題は無いが、特別な病気で他病院受診の際も同行している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所前によく話し合い、ご家族もご本人も協力医での対応を納得して下さっている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	往診や受診、検査等は日頃から家族面会時には報告する様にしてはいる。また急な変化や受診時は、家族に電話連絡を取っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	殆んどの入院は協力医療機関の為、日頃から情報共有は出来ている。また、他の病院に入院される場合も、アセスメントシートなどの情報提供を、出来るだけ細かく記載するようにしている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中も何度か面会か電話等により、担当NSや主治医から様子が聞けるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	協力病院との関係は長い為、出来ている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関の看護職には、往診、受診時、訪問看護、それ以外にも状況を伝え、受診等の相談を電話でする事もある。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	△	今の所、診療時間内の対応であるが、協力医療機関は入院病棟や訪看もある為、緊急時等は其の限りではない。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	健康管理表で状態の把握に努めたり、病状の変化がある等は、常に往診、面会、電話等で伝え主治医の指示を仰いでいる。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	入居者の処方箋を常に把握、確認するよう取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	くすりの管理はホームで行っており、食後お渡しする薬や内服確認は複数の職員で行っている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の体調や顔つき等、様子を見て経過観察を行っている	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	往診時に話し合いを持ち、経過や体調を伝えたり、バイタルやその他普段と違う状態が継続する時にはご家族や医師に相談し、医師の判断により管理している	/	/	/	

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時にも看取りに関する指針等の説明をし、状態変化に応じてご家族と直接会い事前確認を行ったり、最近の日々の様子、主治医の見解等、話し合う機会を持ち、ご家族の意向を確認するようにしている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における対応に係る指針」と「看取りに関する指針」があり、入居時等に利用者や家族に説明を行い、事前確認書に終末期を迎えたい場所や急変時の対応等を利用者や家族に記載してもらっている。また、随時、利用者や家族の意向を確認しながら、主治医や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、事業所として、数名の看取り介護を経験しているものの、重度化や急変時には、病院や施設へ転院する利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	常に利用者の状況を報告したり、主治医との話し合いをしながら、方針を決めケアに取り組んでいる。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の思いを受け止め、出来る限りその時のマニュアルや介護方法を話し合うようにしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	状態に応じて、個々にご家族との話し合いをするようにしており、その時に説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者の状態に沿って全体的な方針を決め、また定期的にユニットで会議(ケアカンファレンス)を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	十分な話し合いを行ない、ご家族の気持ちに寄り添いながら、思いをくみ取り、質問等にも対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職場の回覧を確認したり、個々に調べたり職員会議にて研修している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	対応マニュアルや消毒液の作り方など作成し、職員は再確認しており、時期により予防対策している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	その年により情報は収集していきたいと考えているが、最新情報の入手としては、不十分であるかもしれない。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	協力医療機関からの情報を早く取り入れたり、地域スタッフからの学校等の情報も早い為、流行時は早めに予防している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、手指消毒、検温は常に行い、感染予防に努めている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	日々の暮らしの変化やホームでの生活を出来るだけお話しさせて頂いている				コロナ禍において、事業所では面会制限を設けており、以前のように、家族が事業所の行事へ参加することはできていないものの、県の感染状況が落ち着いていた時期には、十分に感染対策を行った上で、屋外や玄関先などでの面会を可能として、利用者や家族に喜ばれている。また、毎月の請求書の送付時に、利用者の様子が分かる写真を添えるほか、介護計画の見直しの時には、手紙を添えて近況を伝えている。さらに、職員の入社時には、ユニット入り口に設置してある職員紹介ボードを活用して、家族が分かるように表示をして伝えている。さらに、利用者の個人情報の取扱いへの配慮を行い、事業所便りは作成されていないものの、事業所内の廊下には、利用者が活き活きと日常や行事を楽しむ様子の写真が掲示されている。現在は、面会制限が設けられているため、家族が事業所内へ入ることはできないため、玄関ホールでの面会の来訪時に、アルバムのような形で家族に見ていただくと安心に繋がると思われる。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	居室でゆっくりとお話できるよう配慮している(現在はコロナ禍のため密は避けている)					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	これまではお花見会や敬老会等、様々な行事に参加の案内をし、一緒に食事をして頂いたり、共に過ごす時間を持てる様支援していた。コロナ禍で難しい期間であったが、面会可能時は屋外や別室で家族とゆっくり過ごす時間をとっていた。					
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	「たより」の発行はしていないが、定期的に利用者様の日常生活の状況などをコメントしたり、写真を同封している。					
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や介護計画の説明時等は出来るだけ、家族が話しやすい様に声を掛け、希望や心配事何でも話して頂けるよう出来るだけオープンにしている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	出来るだけご家族と話をするようにしている。対応に困っていたり、不安があるような会話が聞けた時は、時間をとって説明するようにしている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会や行事等に参加を募っているため、日々の出来事については出来る限り説明するようにしているが、職員の移動、退職までは都度、報告していない。		x			△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	以前も家族会が必要か、ご家族に意見を求めたが必要性は感じられず、ホームの行事やレクレーション等の参加を呼びかけ、お会いして交流する機会があれば十分との回答を頂いた。					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	ご家族には、転倒や怪我のリスク等ある事を十分説明し、尚且つその中で行える対応策を話し合いケアしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族の面会時には、積極的に声掛けし相談できるように心がけている。普段から毎月の事務処理時にコメントを入れたり、気になる点があれば電話での連絡、相談対応もしている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約に変更があるときは、文書にて報告し質問を常に受け付けている					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居時にはその過程を常にご家族に伝え、今後のことも明確にしている					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	見学時、及び契約時には必ず料金の内訳を説明し、改定がある場合は文書にて説明し、質問がある場合は受け付けている					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	現在はコロナ禍のため密は避けているが、運営推進会議などでお会いするときは説明や目的を伝えている	/	○	/	現在のコロナ禍において、地域行事に参加できる機会は激減しているものの、利用者と職員は近隣の散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れをもらったりするなど、可能な範囲で、日常的に地域との交流を継続している。また、事業所として、自治会に参加協力をしていることもあり、地域住民に事業所の存在は浸透している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	現在はコロナ禍のため密は避けているが、地域の行事(いのこ・お祭り等)には参加させて頂き、また散歩等でお会いしたときは欠かさず挨拶を行っている	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	年々地域との交流が増え、理解を深めている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	現在はコロナ禍のため面会中止であり、立ち寄られることはない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	雨や災害時のことなど、挨拶も含め日常的に会話している(現在はコロナ禍のため必要最低限にとどめている)	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	現在はコロナ禍のため避けているが、以前は行事があるときなどはいつも声をかけさせて頂き、いろいろな催し物をして下さる	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	利用者の個々の能力に合った利用者の希望することを出発点を取り入れるようにしている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	近所のスーパーではよく声をかけて頂き、また理美容についても地域のお店の方が訪問に来て下さり楽しくおしゃべりして頂いている(現在はコロナ禍のため回数は減らしている)	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	現在はコロナ禍のため避けているが、以前はご家族や地域の方に参加して頂いていた	/	○	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は、外部からの参加を呼びかけることができないため、職員と利用者のみでの開催をしている。また、会議の議事録を、一部の参加メンバーに送付している。さらに、コロナ禍以前の会議では、利用者の様子や事業所の行事等を報告するとともに、参加者と意見交換を行い、出された意見をサービスの向上に活かすことができていた。加えて、コロナ禍の書面会議においても、事前に参加メンバーに資料を送付して意見を聞くなど、出席できなくても会議の開催を継続して認識してもらえるような取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	ご家族や地域の方が参加した際、外部評価の内容を議題に上げ報告や意見交換している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議に参加された方からの意見を取り入れ、日々のケアやサービスに活かしている	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	事前に連絡を入れ、参加者への配慮を行っている。この一・二年はコロナ禍のため、案内は控えている	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	毎回の議事録を提示している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるグループホームを目指す」という理念のもと、職員一人ひとりが利用者の立場に立った介護を心がけている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	常に提示している	△	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修センターなどの募集一覧を提示し、職員からの希望を受け付け、また技能に応じて参加を促している	/	/	/	代表者は、他の系列事業所にいることが多く、管理者が実質の運営上の管理を行い、職員の意見や要望を聞き、対応をしている。また、職員は管理者に相談しやすく、希望休の取得や外部研修へ参加することを促進するなど、安心して意欲を持って働くことができる環境が整備され、長期に働く職員も多い。さらに、ユニット毎の勉強会や外部研修等に参加し、職員のスキルアップを図っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	定期的にユニットごとの研修や勉強会をし、質問や意見交換をしている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者・管理者等が常に連携し、職場環境に必要なものを職員と話し合いながら整備している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	代表者や管理者は同業者との交流を図っているが、職員の同業者との直接的な交流は外部研修時にとどまっている(現在はコロナ禍のため特に避けている)	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	円滑にケアに集中できるよう、現場管理している	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に虐待についてのアンケートをとり、また常に虐待にあたる具体的事柄を説明している	/	/	/	虐待防止等の勉強会を実施するほか、年1回職員にアンケートを行うなど、虐待や不適切なケアを考える機会づくりに努めている。日頃から、職員は不適切なケアが起こらないように、意識した対応をしている。また、不適切な行為が見られた場合には、管理者や計画作成担当者から、該当職員に注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	定期的にユニットごとにケアカンファレンスを行っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	常日頃から虐待についての勉強会やアンケート調査を実施し防止に努めている。またこれらの行為を発見した場合には対処方法も常に考え手順についても熟知している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に職員会を開いたり、個々に声掛けを行い職員の疲労状態や困っていることを聴取している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	常日頃から虐待についての理解を高め、職員間でも話し合いを持たせている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的な職員会で身体拘束について話し合いをおこなっている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族との相談も交えながら、利用者本人の状態を明確に伝え、必要以上の身体拘束は行わないよう理解をいただいている	/	/	/	

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	全てのスタッフではないが理解を深める努力をしている	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族からの相談や質問には随時お答えしている	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターとの連携はあり、相談や質問にも答えて頂けるよう常に連絡を取り合っている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時の行動や対処について勉強会を開いたり、職員間でも話し合っ周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	急変時の対応のマニュアルを作成しており、定期的に訓練を行っている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	小さなことでも事故報告書やヒヤリハットを作成し、職員で協議会を開き再発防止に努めている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	個々の状態によって危険予知をし、協議し周知している	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	職員は苦情があった場合は、速やかに連携を取り対応できるようにしている	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	マニュアルを作成し苦情があった場合は瞬時に対応し、また必要な場合は相談をするようにしている	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情への対策を連絡・協議し速やかに対応するとともに両者とも納得のできる関係づくりを行っている	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	常に利用者との会話の場を持っており、コロナ禍以前は介護相談員との連携の中で第三者にしか言えないことも情報として聞ける機会を作っている	/	/	◎	日々のかかわりの中で、職員は利用者から意見や要望を聞くとともに、気づいた内容を含めて、職員間で共有を行い、対応をしている。家族からは、電話連絡時や来訪時などを活用して、随時意見や要望を聞くよう努めている。また、日頃から管理者は、職員と利用者の様子や事業所内の出来事などを話し合い、より良いサービス提供を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	常にご家族とも連携をとっており、要望や苦情を受け付けている。またコロナ禍以前は運営推進会議などで意見交換し、反映する努力をしている	◎	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約書にも記載があり、ご家族がいつでも苦情を伝える手段を提供している	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	常日頃から職員との会話や意見交換をおこなっている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常日頃から提案を受け付けており、利用者にとってもより良い意見は反映している	/	/	◎	

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年に一度は職員全体で自己評価に取り組み、今後のサービス向上に努めるよう努力している				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組むとともに、管理者等が取りまとめて作成をしている。現在のコロナ禍において、集合形式での運営推進会議は開催できないため、参加メンバーや家族に、書面でサービスの評価結果や目標達成計画等の報告を行い、意見をもらうことを予定している。コロナ禍の収束後には、参加メンバーや家族に目標達成計画等の取り組み状況を伝えて、モニターの参加協力をしてもらうとともに、意見やアドバイスを聞くなど、継続してサービスの向上に活かせることを期待したい。また、利用者家族等アンケートの結果から、コロナ禍の状況もあるものの、家族や地域から十分な理解が得られていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、集合形式での運営推進会議を活用して報告をしたり、簡潔にまとめた資料を家族に送付したりするなど、理解促進が図られる取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価後に職員会を開き、全体の課題を明確にして今後のケアの向上に活かしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し、結果を共有し職員全体の士気向上に努めている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議などで報告し改善点や評価を頂いている(現在はコロナ禍のため密は避けている)	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員全体で掲げた取り組みを記録やチェックをし、成果の確認をしている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	消防訓練などを実施し、施設のマップなどで災害時の行動などを周知している				コロナ禍以前は、運営推進会議等を活用して、地域住民と災害等をテーマに話し合ったり、事業所の避難訓練時には、地域住民の参加を呼びかけて、合同の訓練を実施したりするなど、地域との協力支援体制を構築することができている。利用者家族等アンケートの結果から、コロナ禍の状況もあるものの、家族から十分な理解を得ることができていないため、コロナ禍の収束後には来訪時に報告をしたり、事業所内に訓練の様子を掲示したりするなど、理解促進が図られる取組みを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防訓練時に時間帯を想定した訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消化器や非常食の点検を定期的に行い、また外部の点検業者による点検を定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署や地域の消防団の方とも連携を取り緊急時にはすぐ支援して頂けるよう機会を作っている	×	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	運営推進会議などにより災害についての議題をあげ話し合ったり、消防訓練時に地域や外部の方も参加して頂き不備や評価を頂いている(現在はコロナ禍のため密は避けている)				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域の方々からの質問や情報の提供があった場合には、個人情報の取扱いに注意しお答えをしている				地域の高齢者や家族から相談が寄せられた場合には、適切な情報提供を行うなどの対応をしている。また、地域でイベントが開催される場合には、利用者と一緒に参加協力をしている。さらに、町行政の担当者や関係機関と連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方やご家族からの相談があれば、施設の関わりに関係なく情報提供や相談をしているが、今のところはご家族やご親戚の方が多い。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	行事やイベントがあるときは地域の方やボランティアの方々に集まって頂いている(現在はコロナ禍のため密は避けている)				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	コロナ禍以前は高校生の研修所にも活用していただいております。またボランティアにも参加して頂いている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントなどにも積極的に参加し、協力できることは協働している(現在はコロナ禍のため密は避けている)			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3873500536
事業所名	グループホームすまいる
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	鐵宮 翔太
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 20 日

<p>【事業所理念】</p> <p>将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームを目指す</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>コロナ禍のため外出レクも少なくなっていたが、極力人の集まる所は避け、ドライブをしたり、ホーム内でのレクレーションを楽しんでいただけだと思う。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>高台の住宅街にある2階建ての事業所の窓からは、四季折々の山や畑の景色を眺めることができる。コロナ禍においても、事業所では感染症対策を取りながら、近隣への散歩やドライブを行い、利用者の気分転換ができるよう支援しており、散歩中に自然や季節を感じながら、近隣住民と会話を交わすことは、利用者の楽しみの一つとなっている。また、事業所の開設当初から働く職員や勤務歴が長い職員もおり、チームワークを大切にしながら、安心して利用者本位のケアを実践できる環境づくりを心がけている。さらに、「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるようなグループホームを目指す」という事業所理念を職員は念頭に置き、日常生活の様々な場面において、利用者の身体機能の維持向上や、残存機能に考慮した取組みを行いながら、楽しみのある生活が送れるように努め、利用者の自信や活気に繋がる支援をしている。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p>	<p>一人一人と一対一で会話をしたり、接する時間を作り、希望やお気持ちを聞くようにしている。</p> <p>常に入居者の目線や気持ちになり職員間で話し合いをしている</p> <p>コロナ禍のため面会等難しくはなっているが、面会できるときは本人の思いについて話し合い理解を深め共有している</p> <p>日々の生活を記録し、職員と連携しながら個々での対話も共有し把握するようにしている</p> <p>日々の引継ぎや職員会議にて現状に把握に努めている</p>	◎	◎	◎	<p>入居時に、職員は利用者や家族から、暮らし方の希望や意向などの聞き取りをしている。また、日々のかかわりの中で、新たに利用者から知り得た思いなどの情報を記録に残し、職員間で共有をしている。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>入居前のアセスメントシートにて利用者さんの経歴・身体経過等をスタッフ間で共有している。本人にも確認したりご家族の面会等で対話し、出来るだけ多くの情報を得られるようにしている</p> <p>利用者一人一人の現状の身体や、潜在能力等を把握し生活リハビリを取り入れて、有する力を高められるよう努力している。</p> <p>記録や引継ぎにて変わったことを話し合い状況把握を毎日している</p> <p>日々職員同士で話し合い、情報交換し安心して生活して頂けるよう支援している</p> <p>記録を確認し気づいたことを話し合い、全員が把握するようにしている。また定期的なケアカンファレンスにて変化にも対応できるようにしている</p>	◎	◎	◎	<p>入居時に、アセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、基本情報や趣味、性格などを聞き取り、記録している。また、日々のかかわりの中で、新たに利用者から知り得た情報や職員の気づいたことは、利用者毎に気づきノートに記載し、職員間で情報を共有している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>日々の記録や引継ぎをもとに、ご本人との会話を重ね、本人の言動や顔つき等を読み取りながら職員間で話し合っている。</p> <p>定期的にモニタリングしたり、随時ケアカンファレンスしている。</p> <p>課題が見つかった時には、カンファレンスを行い、その時必要なケアを重点的に取り組めるようにしている。</p>	○	○	○	<p>把握した情報をもとに、利用者や家族から意見や要望を聞くほか、医師などの関係者からも指示や意見を聞き、職員間で話し合いをしている。また、利用者が生活を送る上において、何を求めて、何が必要なのかを、利用者の目線で検討している。</p>

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人の思いをくみ取れる様、出来る限り会話したり、寄り添い、動向を確認している。				事前に、職員は利用者へ寄り添いながら意見や要望を聞くとともに、家族から意見や意向を聞いている。また、アセスメント情報をもとに、聞き取った意見等を参考にして、職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者がより良い生活を送ることができるような暮らし方や課題、サービス内容に、利用者や家族、関係者の意見が反映された計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族面会の折には、日頃の様子やケア方針を説明したり、ご家族の要望を聞いている。ご本人とも常に対話し、思いをくみ取れる様努力している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご本人の慣れ親しんだものを居室に置いて安心感を得られるように工夫したり、ご本人の顔色や顔つきを見ながら、言葉かけや見守りを行なっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族の意向等が明確で有る場合、ケアプランに取り入れ、支援するようにしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランに基づき、それに沿った支援をしながら、入居者の顔つきや動向を確認している			◎	利用者一人ひとりに、介護計画に掲げている課題や目標どおりに、サービス内容に沿ったケアが実施できたかどうかを、毎日一覧表でチェックを行い、記録に残すことができている。訪問調査日に確認できた記録は、事業所として取り組んでいる利用者の心身機能の維持やリハビリに焦点を当て、一人ひとりの計画の中に、散歩やスクワット、脳トレ、立位訓練などを取り入れたサービスの実施状況を確認することができる。また、日々のケア記録には、利用者の言動や状況を記録するとともに、職員の気づきやアイデアは申し送りノートや気づきノートに記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	職員同士で気づいたときに話し合ったり、話し合いの場を設けて日々状況確認し、より良い支援を行うよう努力している			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別に記録し入居者の日々の状態や変化等を常に把握できるようにしている			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日誌や介護記録にて、ご本人が発した言葉やそれに対応した言葉など、細やかな記録をしている			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	新規の方は、基本1~2ヶ月で見直しを行い、入居期間の長い方でも、その状態に応じ、必要であれば都度、見直しを行っている。基本、半年を目途に見直しを行っている			◎	入居後すぐの間もない利用者には、1か月~2か月で介護計画の見直しを行うほか、要介護認定の期間に合わせて、6か月に1回を基本として、見直しをしている。また、状態に変化があった場合には、随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成するようにしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	2ヶ月に一度の全体ケアカンファレンスと状態に応じてのケアカンファレンスを随時行っているの で、ほぼ、現状確認は出来ていると思う。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院時等、常にプランの見直しや作成をしている。またご状態変化がある時は、ご家族と連絡をとり今の現状を説明して、ご家族の意向もお聞きするようにしている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に職員会を開いており、また緊急案件が挙がってきた場合は少人数でもカンファレンスを行い、引継ぎの徹底をしている。			○	2か月に1回、ユニット毎に職員会を実施し、職員間で話し合いをしている。また、急を要する場合には、その都度カンファレンスを実施している。さらに、会議に参加できなかった職員には記録を確認してもらうとともに、重要事項は口頭でも伝えている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では全員が発言できるようユニットリーダーを中心に進めており、職員同士も日頃からコミュニケーションをとっていて、何でも話しやすい環境が出来ていると思う。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	当日夜勤以外は参加できるように努めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成したり、引継ぎ等にて伝達できるようにしている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	職員ノートを作り毎日確認したり二か月に一回職員会議を行い、また気づきノート等も作成して些細な情報も共有している			◎	日々の申し送りを実施して口頭で伝達を行うほか、申し送りノートや気づきノート、議事録等を活用しながら、職員間で情報共有をしている。また、申し送りノート等は、出勤時に確認するとともに、内容を把握したら確認後に職員はサインを残し、伝達漏れがないように努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りに話し合ったり決定した事は職員ノートに記入し全員が把握できるようにしている	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	入居者の体調に応じて検討し、出来るだけ叶える努力をしている	/	/	/	食べることや着る服、その日にしたいことなど、日常生活の様々な場面で、利用者の意向を尊重しながら、自己決定できるよう支援している。また、自己決定することが難しい利用者には、選択肢を絞って声かけをするなどの支援に努めている。また、夏には事業所の敷地内の家庭菜園で野菜づくりをしたり、いつものリビングと違う雰囲気づくりをした部屋で、入れ立てのコーヒーを飲みながら、おしゃべりをしたりするなど、利用者が楽しんで生活が送れるような支援にも努めている。さらに、利用者一人ひとりの好きなことや得意なことを把握し、楽しく活き活きとした生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	着る物や飲みたいものを選んで頂いたり、買い物では食べたいおやつを選んで頂けるよう支援している	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	入居者の表情を見ながら話しかけたり会話の中でご本人に選択肢ができるような働きかけをしている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事や入浴等時間が決まっているものもあるが、本人の体調や一人一人のタイミングやペースに合わせてるように努力している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員も笑顔で話しかけるようにし、入居者の好きな話題を把握し提供することで楽しい雰囲気を作るようにしている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や身体の動き等把握し、少しの反応も見逃さないようにしている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	その支援内容により声掛けの言葉や大きさに注意したり、トイレや居室での支援の際も常に最新の注意を払っている	○	○	◎	事業所の開設当初から、長年勤務している職員もおり、利用者の尊厳や人権を考えてケアを行うように、管理者等は新しい職員にも伝えている。利用者へ同じ言葉の声かけを行う場合でも、強い口調や声のトーンなどで、職員は利用者がどのような気持ちになるかを常に意識したケアを心がけている。また、口調や対応が気になる職員には、すぐにその場で注意することなく、職員のその時の心情に考慮し、管理者や計画作成担当者が、職員自らが気づけるようなアプローチをしている。さらに、メインで使用しているトイレには、紙パンツやパッドが外から丸見えにならないように、布で隠す配慮を行っている。加えて、居室は利用者のプライベート空間であることを理解しており、職員はノックや不在時の入室の事前確認をするなど、適切に対応をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	声掛けや対応を常に意識し、個別時は近くに行き声掛けしている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	個室の扉を閉め、プライバシー等を配慮し、個々の状況によりドアの外で見守ったり、声を少しだけ開けて見守っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入るときは必ずノックしたり、声掛けをし、入室させて頂いている	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報漏えいを理解し、守られている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	常に生活の場面があるので家事等、若いスタッフが昔の事を教えていただくことも多く、お互いに感謝の言葉を掛け合い穏やかな関係性を築いている	/	/	/	職員は利用者の性格や関係性を把握し、早めに察知して間に入るなど、トラブルが起こらないような配慮をしている。また、利用者が一人になる時間を大切に考慮した支援を行うとともに、男性等の利用者が、孤立しないように声かけや配席を変更するなどの対応にも努めている。さらに、廊下に掲示されている利用者の日常や行事の写真からは、利用者同士の良好な関係をうかがうことができ、利用者の活気に繋がっている。加えて、若い職員が利用者から教わることも多く、「ありがとうございました」などの感謝の言葉を伝えている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	入居者と共に協力し、支え合うことで刺激し合っている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	入居者同士の関係を把握し、孤立する方も職員が間に入りその場面場面で席を移動して憩いの時間を作ったり、皆さんと仲良く出来るようにしている	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	即座に対応できるように見守り、間に入り解消するよう努力している	/	/	/	

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人に聞いたり、ご家族に聞いてほぼ把握している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族から聞いたり、ご本人からも話を聞き、ある程度把握している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナ禍のため、ここ二年は外出は難しいが、お話を聞いたり、電話や手紙でのやりとりも支援している				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	以前は居室やホールで面会出来ていたが、現在は面会を控えているので、特別な場合は玄関先でお話されている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナ禍で個人の外出は極力控えているが、外気浴やドライブなどは行かれ、気分転換して頂いている	○	○	○	コロナ禍以前は、利用者と一緒に近くのスーパーへ食材の買い物に出かけるなど、日常的に外出することができていた。現在は、感染症対策に十分に配慮をしながら、近隣を散歩したり、ドライブをして季節の花を見に行ったりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、重度の利用者にも、車いすで事業所の外に出て、季節を感じてもらいながら、外気浴や日光浴などの支援をしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	今は行けていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	季節によって着る物を調節して外気浴に行かれ、季節の雰囲気味わっていただいている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望を把握し、可能な所へは出来る限り同行している				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	常に入居者一人一人のケアについて、職員間で話し合い対策を共有し協力している				立位訓練に使用するバーを廊下に取り付けて、車いすを使用している利用者も、筋力が低下しないように訓練を行い、成果が現れている利用者もいる。また、階段で足を上げる動きを行ったり、食事の際にはなるべく車いすから、いすに座り直してもらったりするなど、日々の生活の中で、生活リハビリや身体機能の維持の向上に努め、利用者一人ひとりの自信に繋がるような支援をしている。さらに、利用者の高齢化等に伴い、自分でできることが減ってきているものの、現状でできることやできそうなことを見つけ、職員は見守りや一緒に行えるよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活リハビリや様々な体操を取り入れたり、トイレでの排泄を可能な限り行ったり、ご本人の残存機能の維持に務めている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	入居者一人一人の潜在能力を生かし、出来ると思われることには場面づくりをしながら、ご本人の自発を促せるような取り組みをしている	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントシートや日々の会話にて、ご本人ができることを探し、把握している				事業所では、利用者一人ひとりの趣味や好きなことが継続できるよう取り組むとともに、2か月に1回外部から先生に来訪してもらい、習字を習う時間を設けている。また、身体状況に変化があった場合には、残存機能を活かして、指先で掃除の際の端切れの布の作成をしてもらったり、レクリエーション時に、他の利用者を誘う役割を担ってもらったりするなど、少しでも利用者に関わり合いや楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、定期的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	職員は各々の得意分野を把握しており、その能力が発揮できるようレクリエーションなども工夫している	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	今は地域活動は控えている				

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	ご自分で選べる方は好みの服など選んで着られている。ご自分で選べない方も季節に合った服を職員が選び着せていただいている	/	/	/	整容の乱れや汚れが見られた場合には、さりげないフォローを行うとともに、居室に移動して着替えをしてもらうなど、利用者のプライドや羞恥心に配慮した対応を心がけている。また、行事の際には、化粧品やアクセサリをつけてお洒落を楽しむ利用者もいる。さらに、重度の利用者には、家族の協力や以前の好みを参考にしながら、本人らしい装いができるように支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	定期的な訪問理容の際にも個々の好きな髪形にして頂いたり、また、行きつけの理容室がある方は、その都度外出して頂いている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	ご本人の話を聞いて職員間で話し合ったり、気づきを基にして支援している	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	ご本人と話して決めたり、ご自分で選べない方も、そのときに合った服装を選べるよう支援している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	着衣の乱れや、ボタンの掛け違えや、前後の逆などご本人にさりげなく声掛けて直して頂いたり、髭剃りなどは楽しく会話しながら出来るように心がけている	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	ご自分で行ける方は外出時に行かれています。また、それ以外の方は定期的に訪問理容を利用しており、楽しみにされている方も多い	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ご家族に持ってきていただいたり、昔の写真等でご本人の好みを把握し、似合うものを選んで着て頂いている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	入居者の状態にあった形にし、提供できるようにしている	/	/	/	訪問調査月の数か月前から、事業所では業者の宅配サービスの利用を開始し、業者の栄養士が作成したメニューの食材が届けられるようになってきた。届けられた食材で、昼食は調理専属の職員が調理するとともに、朝食と夕食は順番に、職員が味付けや調理を行い、食事を提供している。地域住民や家族から、レンコンなどの野菜の差し入れをもらうこともあり、利用者同士で相談しながらメニューに加えることもある。調理の下準備やおやつ作りは、利用者も一緒に手伝っている。食器類は、使いやすい物を使用するとともに、自宅から自分の箸を持参してもらい、使用している。職員は交代で見守りや介助を行いながら、利用者と一緒に食事を摂ることができている。また、食事の際にはテレビを消し、静かでゆったりとした音楽を流して、食事の時間と分かる演出をしている。さらに、対面キッチンから調理の様子や匂いを感じることができ、重度の利用者も含めて、楽しく食事が摂れるよう支援している。加えて、業者から食材が届けられているものの、味付けや柔らかさなどを職員間で話し合い、利用者の好みに配慮した食事が提供されている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	◎	おやつ作りや食器拭きなど、入居者と共に行っている。また食材の下準備を手伝って頂いたり、誕生会等には食べたい物を聞いたりしている	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	お米を研いでもらったり食器拭きなどをして頂いている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご本人や家族から話を聞き、苦手なものは味や量を変えて対応している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	入居者の好みの味付けを考えたり、季節によって旬の食材をメニュー変更し、作っている	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	彩を考えたり、大きさや形態を考えた盛り付けにしている。食事中の状態観察を行い、変化があった場合にはその都度職員間で相談し対応している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	目の悪い方には食器を分かり易いものに変えたり、使い易いものを選択できるような箸やスプーン等を揃えている	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	食べにくい大きさのものは食べ易くカットしたり、苦手なものは言葉がけに工夫をしている。バランスよく食べられるように常に見守り声掛けしている	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	どんなメニューを食べているか等の声掛けをし、介助している。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	定期的に体重測定などを行い、その日の体調に応じて調整している。水分量などは季節や気温なども考慮している	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	飲みにくい方には飲み物を変更したり、回数を調整している。食事量が少ない方は経口栄養剤やおやつなどで調整、追加するようにしている	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	今現在、食材は業者委託しているため、カロリーやバランスは取れていると思う。また時々、メニュー変更し、季節ものを取り入れるようにしている	/	/	◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具を消毒したり、新鮮な食材を配達してもらうようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者の状態に合わせて、ブラシを変えたり歯磨きティッシュなどを使用し清潔に保てるようにしている				毎食後に、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。職員は声かけや介助を行い、終了後には、利用者の口腔内の様子を確認している。また、自分で歯磨きができる利用者にも、職員は声かけを行うとともに、磨き残しなどの口腔内の状況を確認できている。さらに、入れ歯のかみ合わせや、虫歯などの異常が見られた場合には、必要に応じて、歯科医の往診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	本人の訴えや、口腔ケア時によく観察し把握している			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科受診時に学び、共有している				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分でできる方はしていただき、さりげなく確認している。また介助が必要な方は支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口臭のある方は舌のブラッシングや口臭予防のできるものを使用している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	本人の訴えだけでなく、食事のペースが落ちてきているなどの症状が表れたときなどにも口腔内の状態を確認し、歯科医に相談し受診している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	本人に相談する際に傷つけない言葉かけの仕方にも話し合いを持ち、本人が納得した上でその時に応じたものを使用している				事業所では、利用者がなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。また、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせて声かけやトイレ誘導をこまめに行うことにより、使用するパッドの枚数が減った利用者もいる。中には、布パンツで生活できている利用者もいる。さらに、職員の声かけ等により、できる限りトイレで自立した排泄支援を促すことで、利用者の自信にも繋がっている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	入居者個々の健康状態を把握し、水分量や運動を促し、便秘対策している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々の排泄時間を毎日記録し、間隔パターンを把握している。ご自分でいけない方は誘導している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	夜間や外出時に尿漏れを心配する入居者様には昼夜のパンツや紙パンツの履き替えを支援したり、個々の身体状態に応じて対応している	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	ご本人の健康状態を確認し、水分・運動を促せられるよう話し合い、出来るだけ自然に排泄できるよう対応している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	居室に戻られる際や移動前など早めに声掛けを行い、誘導している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人と話し合いを設けたり、職員で相談し夜間は安心して就寝できるようなものを使用している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	入居者の日中夜間の状態、変化等を職員で話し合い使い分けしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食事や水分、運動を工夫し、自然排便が出来るよう促している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるように支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	ホームの構造上、曜日や時間帯は決まっているが、その日の体調を見ながら入浴時間や温度に気を付けて入浴できるようにしている	◎		○	週2回を基本として、利用者は入浴することができる。夏場などの時期には利用者が汗をかくこともあり、希望や状態に応じて、入浴回数等を柔軟に対応している。また、1階には、入浴用の車いすを活用して、湯船に浸かることのできる機械浴槽があり、重度の利用者も、安心安全にゆったりと入浴できるよう支援している。さらに、職員は声かけを工夫しながら、利用者の入浴を誘うとともに、入浴剤を入れるなど、気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	楽しいお話を促したり、入浴剤を使用したりしている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	湯船につかる動作一つ一つにしても足が上がるか上がらないかで入居者各々に介助動作を変え、ご自分でできることはして頂き、できないことは介助している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	声かけに工夫し、気持ちよく入浴できるように支援している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には必ずバイタルチェックし、健康状態を確認している。また入浴後も水分補給や体調管理をしている				

愛媛県グループホームすまいる

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	就寝時間や夜間に起きられた時間などを記録して、睡眠パターンを把握している	/	/	/	入居前から、継続して睡眠導入剤を服薬する利用者がいるものの、運動や散歩などの日中の活動量を増やし、服薬の必要がなくなった利用者もいる。また、職員は利用者の様子を観察しながら主治医に相談するとともに、利用者が落ち着けるような声かけや環境に配慮し、服薬に頼りすぎない支援を行い、夜間に利用者が良眠できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼夜逆転しているときには日中声掛けや運動を増やしたり、心配事がある時はお話しする機会を増やし、入眠前は照明や空調を考え、眠りやすい環境を心掛けている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中に運動して頂いたり眠れていない方は休息をとって頂いている	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	日中の状態に応じて本人に個別に取って頂いたり、重度の方は臥床時間をとって頂いている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	ご自分の携帯を使用されている方で、支援が必要な方には支援したり、ホームの携帯で取り次ぎしたり、ご本人の希望に沿えるようにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご本人が手紙を書けない時は、一言でもメッセージを書いて頂いたり、名前を書いてもらうなど、各々に少しでも出来る事を促し、支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	要望があれば、ホール内の携帯を繋いだり、個室での電話も出来るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	わかる方には渡したり、返事を書きたい場合は手紙、はがき等の調達や投函を支援し、読めない方には朗読や内容をお伝えしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をかけたいという要望があれば随時対応しており、特に県外で面会が困難なご家族にはお手紙などを頂けるようお伝えしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	一緒に買い物に行ったときにお菓子や個人的な日用品など欲しいものを買うようにしている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	基本的には金銭の所持はトラブルを避けるためご家族にもご理解を得てお断りしているが、必要なものは施設での立て替えにて対応し、購入できるようにしている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	良く行くスーパーは地域内にあり、ホームの事も知っている為、その会話や言葉掛けで、ケアの事を理解して下さっていると思う。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	基本的には金銭の所持はトラブルを避けるためご家族にもご理解を得てお断りしているが、事務所の金庫でのお預かりはしており、必要な時にはいつでも使えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人やご家族と話し合い事務所で管理できている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	ご家族との同意のもと金銭の管理は事務所にて行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者やご家族と話し合い、個々の家族間の諸事情にも配慮しながら、外出や面会なども柔軟に対応している。また今までにない要望があった場合は、難しいと決めつけず安全性や体調に考慮し、話し合い検討している。	◎	/	◎	事業所では、利用者や家族の希望やニーズに応じて、状況を考慮しながら、より良い対応ができるように検討を行い、可能な範囲で柔軟な対応をしている。また、外部からの訪問マッサージを利用できるよう支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は引き戸になっており、一般的な家庭より少し広々とした空間にはなっているが、気軽に出入りできるように花や季節ごとの物を置くなどインテリアを考え工夫している	◎	◎	◎	明るく家庭的な雰囲気のある玄関先には、ベンチの横に新たに自動販売機が設置され、近隣住民や子ども達も利用をしている。また、訪問調査日には、玄関の窓辺に、利用者と一緒に作った干し柿が吊るされ、季節感を味わうことができた。さらに、事業所の外から窓ガラス越しに、リビングで楽しそうに過ごす利用者の様子がうかがえ、開放的な雰囲気が感じられる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。)	◎	共用の空間には入居者と一緒に作成した物などを飾ったり、季節や行事ごとに写真や飾りつけをしている。	◎	◎	◎	事業所では、季節毎にお雛様などを飾ったり、正月には正月飾りの前で、利用者が着物で記念撮影をしたりする場合などに、リビングにある畳スペースが活用されている。また、事業所は開設してからの年数を感じさせないぐらいの細かい部分にも配慮された環境整備が行き届き、明るく清潔感があり、快適な空間となっている。さらに、訪問調査日には、テーブルに生けられたバラを愛でる利用者の姿が見られ、花がない時でも、近くの野草を利用者と一緒に飾るなど、心地良さを感じることができた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除し、消臭剤を置くなど不快感がないようにしている					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	生活空間の中に季節を感じるものを取り入れ、季節の花や置物を飾ったり、会話の中にも季節の話や話題のニュース等を取り入れ心地よく過ごせるようにしている					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	居室は個室となっており、ご本人の意思でいつでも休めるようにしている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	構造的にほぼ直接見えなくなっているが、見えてしまうところにはカーテンで仕切りを作っている					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居の際には、出来るだけ本人が使い慣れた物等を持ち込んで頂ける様、ご家族にお話させて頂いている。	◎		○	居室には、使い慣れた物や馴染みの家具などを持ち込み、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。エアコンは設置されているものの、床暖房の活用で、冬でも乾燥を防ぐことができている。また、家族の写真や、誕生会時に職員から寄せられた寄せ書き等が飾られ、温かみのある空間となっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	段差はなく、開閉しやすい扉になっており、また表札などを作成し目でわかるような工夫もしている			◎	トイレの場所が分かりやすいように表示するとともに、一人ひとりの居室の入り口には、職員手作りの木製のネームプレートが掛けられ、認識しやすいよう工夫されている。また、リビングには大きく見えやすい日めくりのカレンダーと、その月の行事や往診の日等が書かれたホワイトボードが設置され、利用者も事前に確認ができるようになっている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	危険なものは触れられない場所に置くようにしている					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	基本ほうき等の掃除道具は定位置に置いている。新聞などは入居者本人がいつでも手に取れるようにしている					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	防犯上夜間は玄関やユニットの出入り口は施錠しているが、入居者の安全を守るために日中はチャイムを付け開閉可能にしている。	◎	◎	◎	日中には、玄関と両ユニットの入り口の施錠はされておらず、利用者等の出入りは、センサーチャイム等を活用して対応をしている。また、夜間と午前中の職員が揃うまでは、防犯と安全のために、玄関等の施錠をしている。さらに、外に出たい利用者には職員が付き添い、気軽に散歩を行うなど、外気に触れて気分転換をしてもらっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時や契約時にご家族と話し合い理解を得ている。また施錠を望まれるご家族にも閉塞感からくる認知症の進行があることも理解して頂き、なるべく自由な生活をして頂けるよう話し合っている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中は施錠はしておらず、外出の時は事務所の前を必ず通るような構造になっている。またご家族と外出される際は行先を把握しており、大体の外出時間まで教えて頂くようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時のサマリや薬表にて、病歴や現病等職員で情報共有し把握している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	健康管理表にて、血圧、検温、排泄、食事量、内服薬等の把握や管理をし、再測時等も記録に残すようにしている。情報共有もしている	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医は、定期的な往診や受診で入居者の状態を把握して下さっており、担当看護師も長年のお付き合いの為、電話での相談にも応じて頂いている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	受診状況は、受診記録にてスタッフ全員が把握できる様にしており、殆んどの方が入所前より協力病院が主治医の為問題は無いが、特別な病気で他病院受診の際も同行している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所前によく話し合い、ご家族もご本人も協力医での対応を納得して下さっている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	往診や受診、検査等は日頃から家族面会時には報告する様にしてはいる。また急な変化や受診時は、家族に電話連絡を取っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	殆んど入院は協力医療機関の為、日頃から情報共有は出来ている。また、他の病院に入院される場合も、アセスメントシートなどの情報提供を、出来るだけ細かく記載するようにしている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中も何度か面会が電話等により、担当NSや主治医から様子が聞けるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	協力病院との関係は長い為、出来ている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関の看護職には、往診、受診時、訪問看護、それ以外にも状況を伝え、受診等の相談を電話でする事もある。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	△	今の所、診療時間内の対応であるが、協力医療機関は入院病棟や訪看もある為、緊急時等は其の限りではない。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	健康管理表で状態の把握に努めたり、病状の変化がある等は、常に往診、面会、電話等で伝え主治医の指示を仰いでいる。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	入居者の処方箋を常に把握、確認するよう取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	くすりの管理はホームで行っており、食後お渡しする薬や内服確認は複数の職員で行っている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の体調や顔つき等、様子を見て経過観察を行っている	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	往診時に話し合いを持ち、経過や体調を伝えたり、バイタルやその他普段と違う状態が継続する時にはご家族や医師に相談し、医師の判断により管理している	/	/	/	

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時にも看取りに関する指針等の説明をし、状態変化に応じてご家族と直接会い事前確認を行ったり、最近の日々の様子、主治医の見解等、話し合う機会を持ち、ご家族の意向を確認するようにしている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における対応に係る指針」と「看取りに関する指針」があり、入居時等に利用者や家族に説明を行い、事前確認書に終末期を迎えたい場所や急変時の対応等を利用者や家族に記載してもらっている。また、随時、利用者や家族の意向を確認しながら、主治医や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、事業所として、数名の看取り介護を経験しているものの、重度化や急変時には、病院や施設へ転院する利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	常に利用者の状況を報告したり、主治医との話し合いをしながら、方針を決めケアに取り組んでいる。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の思いを受け止め、出来る限りその時のマニュアルや介護方法を話し合うようにしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	状態に応じて、個々にご家族との話し合いをするようにしており、その時に説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者の状態に沿って全体的な方針を決め、また定期的にユニットで会議(ケアカンファレンス)を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	十分な話し合いを行ない、ご家族の気持ちに寄り添いながら、思いをくみ取り、質問等にも対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職場の回覧を確認したり、個々に調べたり職員会議にて研修している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	対応マニュアルや消毒液の作り方など作成し、職員は再確認しており、時期により予防対策している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	その年により情報は収集していきたいと考えているが、最新情報の入手としては、不十分であるかもしれない。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	協力医療機関からの情報を早く取り入れたり、地域スタッフからの学校等の情報も早い為、流行時は早めに予防している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、手指消毒、検温は常に行い、感染予防に努めている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	日々の暮らしの変化やホームでの生活を出来るだけお話しさせて頂いている				コロナ禍において、事業所では面会制限を設けており、以前のように、家族が事業所の行事へ参加することはできていないものの、県の感染状況が落ち着いていた時期には、十分に感染対策を行った上で、屋外や玄関先などでの面会を可能として、利用者や家族に喜ばれている。また、毎月の請求書の送付時に、利用者の様子が分かる写真を添えるほか、介護計画の見直しの時には、手紙を添えて近況を伝えている。さらに、職員の入社時には、ユニット入り口に設置してある職員紹介ボードを活用して、家族が分かるように表示をして伝えている。さらに、利用者の個人情報の取扱いへの配慮を行い、事業所便りは作成されていないものの、事業所内の廊下には、利用者が活き活きと日常や行事を楽しむ様子の写真が掲示されている。現在は、面会制限が設けられているため、家族が事業所内へ入ることはできないため、玄関ホールでの面会の来訪時に、アルバムのような形で家族に見ていただくと安心に繋がると思われる。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	居室でゆっくりとお話できるよう配慮している(現在はコロナ禍のため密は避けている)					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	これまではお花見会や敬老会等、様々な行事に参加の案内をし、一緒に食事をして頂いたり、共に過ごす時間を持てる様支援していた。コロナ禍で難しい期間であったが、面会可能時は屋外や別室で家族とゆっくり過ごす時間をとっていた。					
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	「たより」の発行はしていないが、定期的に利用者様の日常生活の状況などをコメントしたり、写真を同封している。			○		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や介護計画の説明時等は出来るだけ、家族が話しやすい様に声を掛け、希望や心配事何でも話して頂けるよう出来るだけオープンにしている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	出来るだけご家族と話をするようにしている。対応に困っていたり、不安があるような会話が聞けた時は、時間をとって説明するようにしている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会や行事等に参加を募っているため、日々の出来事については出来る限り説明するようにしているが、職員の移動、退職までは都度、報告していない。		x			△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	以前も家族会が必要か、ご家族に意見を求めたが必要性は感じられず、ホームの行事やレクレーション等の参加を呼びかけ、お会いして交流する機会があれば十分との回答を頂いた。					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	ご家族には、転倒や怪我のリスク等ある事を十分説明し、尚且つその中で行える対応策を話し合いケアしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族の面会時には、積極的に声掛けし相談できるように心がけている。普段から毎月の事務処理時にコメントを入れたり、気になる点があれば電話での連絡、相談対応もしている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約に変更があるときは、文書にて報告し質問を常に受け付けている					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居時にはその過程を常にご家族に伝え、今後のことも明確にしている					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	見学時、及び契約時には必ず料金の内訳を説明し、改定がある場合は文書にて説明し、質問がある場合は受け付けている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	現在はコロナ禍のため密は避けているが、運営推進会議などでお会いするときは説明や目的を伝えている	/	○	/	現在のコロナ禍において、地域行事に参加できる機会は激減しているものの、利用者と職員は近隣の散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れをもらったりするなど、可能な範囲で、日常的に地域との交流を継続している。また、事業所として、自治会に参加協力をしていることもあり、地域住民に事業所の存在は浸透している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	現在はコロナ禍のため密は避けているが、地域の行事(いのこ・お祭り等)には参加させて頂き、また散歩等でお会いしたときは欠かさず挨拶を行っている	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	年々地域との交流が増え、理解を深めている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	現在はコロナ禍のため面会中止であり、立ち寄られることはない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	雨や災害時のことなど、挨拶も含め日常的に会話している(現在はコロナ禍のため必要最低限にとどめている)	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	現在はコロナ禍のため避けているが、以前は行事があるときなどはいつも声をかけさせて頂き、いろいろな催し物をして下さる	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	利用者の個々の能力に合った利用者の希望することを出発点を取り入れるようにしている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	近所のスーパーではよく声をかけて頂き、また理美容についても地域のお店の方が訪問に来て下さり楽しくおしゃべりして頂いている(現在はコロナ禍のため回数は減らしている)	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	現在はコロナ禍のため避けているが、以前はご家族や地域の方に参加して頂いていた	/	○	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は、外部からの参加を呼びかけることができないため、職員と利用者のみでの開催をしている。また、会議の議事録を、一部の参加メンバーに送付している。さらに、コロナ禍以前の会議では、利用者の様子や事業所の行事等を報告するとともに、参加者と意見交換を行い、出された意見をサービスの向上に活かすことができていた。加えて、コロナ禍の書面会議においても、事前に参加メンバーに資料を送付して意見を聞くなど、出席できなくても会議の開催を継続して認識してもらえるような取組を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	ご家族や地域の方が参加した際、外部評価の内容を議題に上げ報告や意見交換している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議に参加された方からの意見を取り入れ、日々のケアやサービスに活かしている	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	事前に連絡を入れ、参加者への配慮を行っている。この一・二年はコロナ禍のため、案内は控えている	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	毎回の議事録を提示している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「将来の自分(自分の家族)が入居したくなるグループホームを目指す」という理念のもと、職員一人ひとりが利用者の立場に立った介護を心がけている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	常に提示している	△	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修センターなどの募集一覧を提示し、職員からの希望を受け付け、また技能に応じて参加を促している	/	/	/	代表者は、他の系列事業所にいることが多く、管理者が実質の運営上の管理を行い、職員の意見や要望を聞き、対応をしている。また、職員は管理者に相談しやすく、希望休の取得や外部研修へ参加することを促進するなど、安心して意欲を持って働くことができる環境が整備され、長期に働く職員も多い。さらに、ユニット毎の勉強会や外部研修等に参加し、職員のスキルアップを図っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	定期的にユニットごとの研修や勉強会をし、質問や意見交換をしている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者・管理者等が常に連携し、職場環境に必要なものを職員と話し合いながら整備している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	代表者や管理者は同業者との交流を図っているが、職員の同業者との直接的な交流は外部研修時にとどまっている(現在はコロナ禍のため特に避けている)	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	円滑にケアに集中できるよう、現場管理している	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に虐待についてのアンケートをとり、また常に虐待にあたる具体的事柄を説明している	/	/	/	虐待防止等の勉強会を実施するほか、年1回職員にアンケートを行うなど、虐待や不適切なケアを考える機会づくりに努めている。日頃から、職員は不適切なケアが起こらないように、意識した対応をしている。また、不適切な行為が見られた場合には、管理者や計画作成担当者から、該当職員に注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	定期的にユニットごとにケアカンファレンスを行っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	常日頃から虐待についての勉強会やアンケート調査を実施し防止に努めている。またこれらの行為を発見した場合には対処方法も常に考え手順についても熟知している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に職員会を開いたり、個々に声掛けを行い職員の疲労状態や困っていることを聴取している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	常日頃から虐待についての理解を高め、職員間でも話し合いを持たせている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的な職員会で身体拘束について話し合いをおこなっている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族との相談も交えながら、利用者本人の状態を明確に伝え、必要以上の身体拘束は行わないよう理解をいただいている	/	/	/	

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	全てのスタッフではないが理解を深める努力をしている	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族からの相談や質問には随時お答えしている	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターとの連携はあり、相談や質問にも答えて頂けるよう常に連絡を取り合っている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時の行動や対処について勉強会を開いたり、職員間で話し合っ周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	急変時の対応のマニュアルを作成しており、定期的に訓練を行っている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	小さなことでも事故報告書やヒヤリハットを作成し、職員で協議会を開き再発防止に努めている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	個々の状態によって危険予知をし、協議し周知している	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	職員は苦情があった場合は、速やかに連携を取り対応できるようにしている	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	マニュアルを作成し苦情があった場合は瞬時に対応し、また必要な場合は相談をするようにしている	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情への対策を連絡・協議し速やかに対応するとともに両者とも納得のできる関係づくりを行っている	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	常に利用者との会話の場を持っており、コロナ禍以前は介護相談員との連携の中で第三者にしか言えないことも情報として聞ける機会を作っている	/	/	◎	日々のかかわりの中で、職員は利用者から意見や要望を聞くとともに、気づいた内容を含めて、職員間で共有を行い、対応をしている。家族からは、電話連絡時や来訪時などを活用して、随時意見や要望を聞くよう努めている。また、日頃から管理者は、職員と利用者の様子や事業所内の出来事などを話し合い、より良いサービス提供を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	常にご家族とも連携をとっており、要望や苦情を受け付けている。またコロナ禍以前は運営推進会議などで意見交換し、反映する努力をしている	◎	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約書にも記載があり、ご家族がいつでも苦情を伝える手段を提供している	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	常日頃から職員との会話や意見交換をおこなっている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常日頃から提案を受け付けており、利用者にとってもより良い意見は反映している	/	/	◎	

愛媛県グループホームすまいる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年に一度は職員全体で自己評価に取り組み、今後のサービス向上に努めるよう努力している	/	/	/	外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組むとともに、管理者等が取りまとめて作成をしている。現在のコロナ禍において、集合形式での運営推進会議は開催できないため、参加メンバーや家族に、書面でサービスの評価結果や目標達成計画等の報告を行い、意見をもらうことを予定している。コロナ禍の収束後には、参加メンバーや家族に目標達成計画等の取り組み状況を伝えて、モニターの参加協力をしてもらうとともに、意見やアドバイスを聞くなど、継続してサービスの向上に活かせることを期待したい。また、利用者家族等アンケートの結果から、コロナ禍の状況もあるものの、家族や地域から十分な理解が得られていないことがうかがえるため、コロナ禍の収束後には、集合形式での運営推進会議を活用して報告をしたり、簡潔にまとめた資料を家族に送付したりするなど、理解促進が図られる取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価後に職員会を開き、全体の課題を明確にして今後のケアの向上に活かしている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し、結果を共有し職員全体の士気向上に努めている	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議などで報告し改善点や評価を頂いている(現在はコロナ禍のため密は避けている)	x	x	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員全体で掲げた取り組みを記録やチェックをし、成果の確認をしている	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	消防訓練などを実施し、施設のマップなどで災害時の行動などを周知している	/	/	/	コロナ禍以前は、運営推進会議等を活用して、地域住民と災害等をテーマに話し合ったり、事業所の避難訓練時には、地域住民の参加を呼びかけて、合同の訓練を実施したりするなど、地域との協力支援体制を構築することができている。利用者家族等アンケートの結果から、コロナ禍の状況もあるものの、家族から十分な理解を得ることができていないため、コロナ禍の収束後には来訪時に報告をしたり、事業所内に訓練の様子を掲示したりするなど、理解促進が図られる取組みを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防訓練時に時間帯を想定した訓練を行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火器や非常食の点検を定期的に行い、また外部の点検業者による点検を定期的に行っている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署や地域の消防団の方とも連携を取り緊急時にはすぐ支援して頂けるよう機会を作っている	x	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	運営推進会議などにより災害についての議題をあげ話し合ったり、消防訓練時に地域や外部の方も参加して頂き不備や評価を頂いている(現在はコロナ禍のため密は避けている)	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域の方々からの質問や情報の提供があった場合には、個人情報の取扱いに注意しお答えをしている	/	/	/	地域の高齢者や家族から相談が寄せられた場合には、適切な情報提供を行うなどの対応をしている。また、地域でイベントが開催される場合には、利用者と一緒に参加協力をしている。さらに、町行政の担当者や関係機関と連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方やご家族からの相談があれば、施設の関わりに関係なく情報提供や相談をしているが、今のところはご家族やご親戚の方が多い。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	行事やイベントがあるときは地域の方やボランティアの方々に集まって頂いている(現在はコロナ禍のため密は避けている)	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	コロナ禍以前は高校生の研修所にも活用していただいております。またボランティアにも参加して頂いている	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントなどにも積極的に参加し、協力できることは協働している(現在はコロナ禍のため密は避けている)	/	/	○	